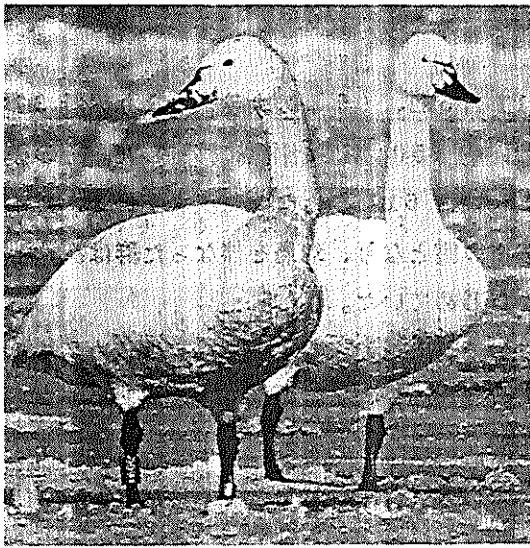


各地からの

カメラ情報

脚環だけの009Y

風 間 忠



鳥屋野潟には、毎年相当数の標識コハクが観察されていますが、ときに、このように首輪のとれてしまったコハクも観察されます。

009Y - 1980.3.2撮影。

(新潟県亀田町砂崩)

カモだけふえた白鳥海岸

吉 野 安 久



この写真をごらんになって、いろいろなことが相像できるのではないのでしょうか。

近年、意東海岸には1月ころ常時500～600羽程度のコハクチョウが見られたものですが、昭和55年12月以降やっと30羽くらいが見られただけです。その後もいっこうにふえず、オナガとキンクロハジロがコハクチョウを押しつけて泳ぎ回っていました。(松江市中原町99)

足の茶色の幼鳥

加 福 喜 一

平川に渡来しているオオハクの幼鳥で、足の色が茶色なのが二羽見られます。写真手前のものは、その一羽です。(青森県藤崎町下袋132)

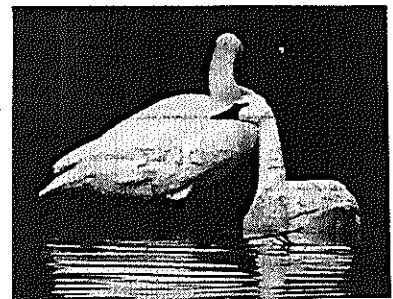


アメリカコハクその後

三 上 士 郎

前号のカメラ情報のアメリカコハクの撮影年度を次のように証正します。

1958・1959とあるのを1979



に。なお同年は、一冬に2羽の「アメコ」が下北半島に入ったこととなります。同一日の同時観察で小川原湖と大湊で認められました。写真は1979.12.16 大湊にて古川博氏撮影。

(むつ市柳町1-8-16)